日本環境変異原学会
公開シンポジウム
2009.5.30.

食品の安全性と食への安心

同志社大学

中谷内一也

問い：食への安心には何が必要か？

ひとくちに、”安全・安心”というけれど・・・

安全：現実としての低危険状態

安心：危険ではないと感じている心の状態

「安全」と「安心」はペアにして使われる。なぜ？

安全で安心な給食を子供たちに・・

「安全」と「安心」をわざわざ並べて使うということは、両者が別物であるということ

ここから導かれるひとつ目の答え

→安全を高めれば、それで安心社会となるわけではない　～リスク認知研究の出発点

どうやら「ここまで安全なら安心する」というレベルはなさそう

わが国での食中毒死亡者数の推移

1960年前後 0.27/10万人

1980年前後 0.017/10万人

2000年前後 0.004/10万人

このように、食の安全は高まっているのに、安心は低下

食品安全委員会設立の経緯

→狂牛病問題。では、わが国におけるBSEの感染者は？

他にも、有害化学物質の環境濃度低下、交通事故死減少、天災の犠牲者減少、実は治安も悪化していない、平均寿命も延長

～安全レベルは向上。しかし、むしろ、不安は高まっている

どんどん安全になったから、どんどん安心感が広がるというわけではない

もちろん、両者は無関係ではなく、「安全」は「安心」の必要条件だろう

でも、安全だけでは不十分で、安心を得るには、プラスアルファの取り組みが必要

それは何か？

「安全・安心」の問題が語られるとき、多くの場合、安心というコトバは信頼というコトバと互換性が高い

このレストランは[安心]できる

ここから導かれる2つめの答え

安心を得るためには安全管理をしている組織や機関への”信頼”が必要

ここで、なぜ、信頼が安心に置き換え可能なのか、考えてみよう

→生活の外部依存化、専門・分業化

自分の安全は外部の専門家次第となる

「安心社会には何が必要か？」

↓

「安全管理する専門家への信頼が必要」

↓

「では、信頼には何が必要か？」

信頼は何によって導かれるのか？

Hovland & Weiss, 1951のイェール・コミュニケーション研究

話題	高信憑性	低信憑性
抗ヒスタミン剤の簡便な購入	ニューイングランド生物医学雑誌	大衆雑誌Ａ
原子力潜水艦の実用	オッペンハイマー	プラウダ
鉄鋼不足の責任問題	連邦資源計画委員会報告	右翼新聞の記者Ａ氏
テレビ出現による映画館の将来	フォーチュン誌	女性向け映画ゴシップ寄稿者Ｂ氏

では、信憑性の中身は？

イェール・コミュニケーション研究以来の知見を乱暴にまとめると；

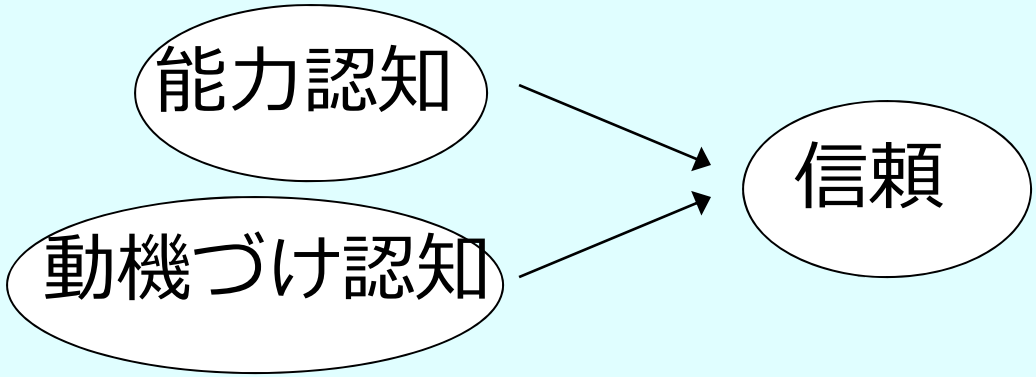
信頼を構成する２成分

・能力(competence)認知：

　　専門知識、技術、経験、資格、etc.

・動機づけ(motivation) 認知：

　　誠実さ、公正さ、真面目さ、etc.



この考え方は多くの研究で支持されている

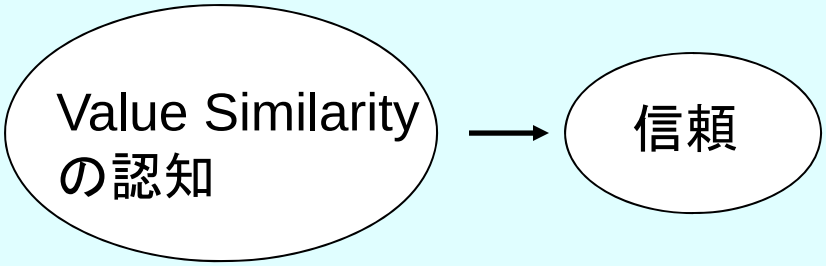
実務的にもそれに沿った信頼改善策が実施されている　ex.トラブル後の第三者専門家委員会の利用

この自明視されている考え方が十分に有効か？

主要価値類似性(SVS)モデル(Earle & Cvetkovich, 1995)

主要価値: 当該問題に対処するとき、問題をどのように見立て、何を重視するかということ。文脈に応じて変化しうる”見解”ぐらいの意味で受け取ったほうがよい

相手が当該問題にかかわる主要な価値を自分と共有していると感じると、その相手を信頼するというモデル



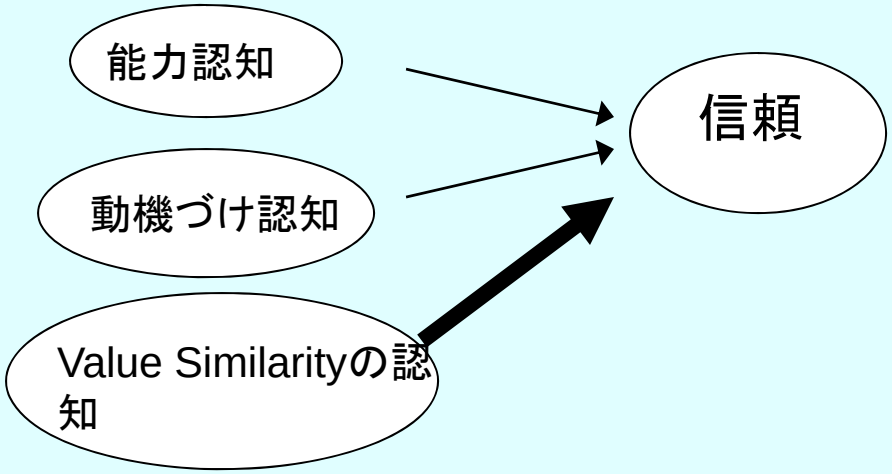
つまり;

安全管理体制に対する人びとの信頼を導くには
伝統的モデルで重視される能力認知や動機づけ
認知を改善するだけでは不十分

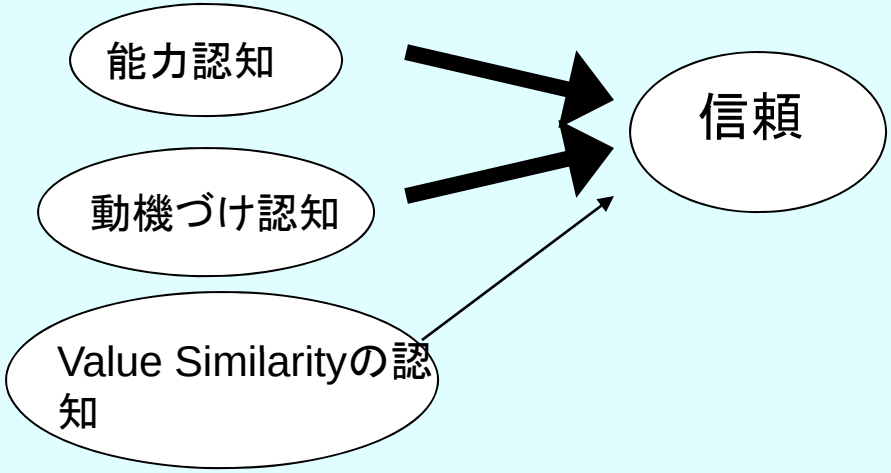
同じ価値を共有していると思われることが必要

統合信頼モデルのアイデア

その問題が個人にとって重要な場合(SVSモデル)



その問題が個人にとって重要でない場合(伝統的モデル)



リスク管理機関への信頼

(中谷内一也・George Cvetkovich 2008, 社会心理学研究, vol.23)

遺伝子組み換え作物である花粉症緩和米を材料に、責任省庁への信頼が何によって導かれるかを調査

リスク管理機関への信頼は;

・伝統的モデルが強調する要因 -能力認知と公正さ認知-

・SVSモデルが強調する要因 -価値の類似性認知-

のどちらがより重みづけが大きいか。

高関心者と低関心者とに分けて比較する。

調査対象者

首都40km圏内居住の20～69歳の1,000名（有効回答数）

調査時期：2006年1月下旬

調査方法：訪問留め置き調査

調査項目

関心の強さ（５件法）→高関心群150名、低関心群113名

信頼、価値類似性評価、公正さ評価、能力評価　（５件法）

評価対象

厚生労働省、農林水産省

信頼を基準変数、SVS、公正さ、能力の評価を説明変数とする重回帰分析の結果

		価値類似性		公正さ		能力	
	R^{*2}	β	t	β	t	β	t
厚労省							
高関心群	.417	**.408**	5.82***	**.247**	3.11**	**.176**	2.05*
低関心群	.385	**.281**	3.43***	**.349**	3.99***	**.180**	1.98+
農水省							
高関心群	.373	**.315**	4.29***	**.344**	4.20***	**.105**	1.25
低関心群	.316	**.193**	2.16*	**.370**	4.02***	**.152**	1.60

+ $p<.10$, * $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$

R^{*2}は自由度調整済み決定係数、βは標準偏回帰係数

考察

信頼との結びつきは;

高関心者にとっては価値類似性が、

低関心者にとっては公正さが、

強い。

<u>能力評価は信頼との結びつきは弱い</u>

→研究者としての価値（科学的・技術的レベルの高さ）

を押しつけても信頼は得られない

ご静聴いただき、
どうもありがとうございました。